

公立小中学校等施設耐震診断結果の公表について

学校は、子どもたちの学習の場であるとともに、その多くが災害時には地域住民の避難場所になるなど、大切な役割を担っています。

小野市では建築基準法の改正(昭和56年6月)前の基準で建築された校舎等について、平成12年度から耐震診断を実施し、耐震補強が必要と認められた校舎等の補強を平成20年度から行っております。

平成20年6月に地震防災対策特別措置法が改正され、公立の幼稚園、小・中学校等の校舎等について耐震診断の実施とともに、耐震診断を実施した建物ごとにその結果の公表が義務付けられました。

この度、平成26年3月末の耐震診断等の結果がまとまりましたので、建物ごとの状況を公表いたします。

耐震化の状況(平成26年3月末現在)

学校名・建物種別		全棟数 ※1	昭和57年 以降建築 の棟数 (新耐震)	昭和56年 以前建築 の棟数 (旧耐震)	耐震性有 及び耐震 補強済の 棟数	耐震性が 無い棟数 ※2	耐震化率
小学校	校舎	20	13	7	7	0	100.0%
	体育館	8	6	2	2	0	100.0%
中学校	校舎	13	3	10	10	0	100.0%
	体育館	7	4	3	3	0	100.0%
小・中合計		48	26	22	22	0	100.0%
特別支 援学校	校舎	5	5	0	0	0	100.0%
	体育館	1	1	0	0	0	100.0%
幼稚園		2	0	2	0	2	0.0%
総合計		56	32	24	22	2	96.4%

※1 対象建物は、非木造の校舎等で2階建以上又は延床面積が200㎡以上のものです。

※2 詳細な耐震診断(第2次診断)により耐震性が確認される可能性がある棟数も含まれます。

耐震診断結果(平成26年3月末現在)

学校名	建物	棟番号	構造	建築年	面積	耐震診断の方法	診断年度	Is 値	優先度ランク	整備計画
市場小学校	北校舎	5	R2	S38	1,268	第2次診断	H20	0.53		21年度補強済
	南西校舎	8	R2	S52	453	第2次診断	H17	1.04		補強不要
	体育館	9	R2	S40	595	第2次診断	H20	0.56		21年度補強済
大部小学校	南校舎	2	R3	S45	1,640	第2次診断	H20	0.39		21年度補強済
	体育館	3	S2	S46	575	第2次診断	H20	0.26		21年度補強済
小野東小学校	南校舎	1	R3	S50	2,368	第3次診断	H12	0.33		25年度補強済
	中校舎	2	R2	S50	1,633	第3次診断	H12	0.44		25年度補強済
	北東校舎	3	R2	S50	709	第3次診断	H12	0.64		25年度補強済
	北西校舎	8	R2	S56	605	第3次診断	H12	0.61		25年度補強済
旭丘中学校	南校舎	1	R3	S43	2,758	第2次診断	H19	0.38		20年度補強済
	中校舎	2・3	R3	S43	1,737	第2次診断	H19	0.29		20年度補強済
	技術棟	6	S1	S44	312	第2次診断	H20	0.35		20年度補強済
	体育館	8	R2	S44	852	第2次診断	H19	0.10		20年度補強済
小野南中学校	管理棟1	1	R2	S55	604	第2次診断	H19	0.47		20年度補強済
	北校舎	2	R3	S55	1,988	第2次診断	H19	0.48		20年度補強済
	管理棟2	3	R2	S55	678	第2次診断	H19	0.92		補強不要
	南校舎	4	R3	S55	1,375	第2次診断	H19	0.54		20年度補強済
	体育館	9・10	R・S2	S56	1,592	第2次診断	H19	0.09		20年度補強済
河合中学校	南校舎	1	R3	S47	2,346	第2次診断	H19	0.29		20年度補強済
	東校舎	2	R2	S46	218	第2次診断	H19	0.92		補強不要
	北校舎	4	R3	S46	1,224	第2次診断	H19	0.37		20年度補強済
	体育館	7	S2	S48	1,145	第2次診断	H19	0.12		20年度補強済
わか松幼稚園	教室棟	1	S1	S45	297	優先度調査	H18		4	28年度以降
小野東幼稚園	教室棟	1	S1	S44	573	優先度調査	H18		4	28年度以降

用語の説明

1 「構造」欄のRは鉄筋コンクリート造を、Sとあるものは鉄骨造を、数字は階数を意味します。

2 耐震診断の方法

「優先度調査」とは、正確には「耐震化優先度調査」といい、建物の建築年、構造形式、コンクリート強度、耐震壁などから第2次診断実施の優先順位を判断するための調査のこと。その結果が1から5までの5段階の優先度ランクに判定され、小さい数字ほど優先度が高くなります。

「第2次診断」とは、柱・壁・コンクリート強度・鉄筋量等から建物の強さと粘りを算出する診断方法です。

「第3次診断」とは、柱・壁に加えて梁の受けるダメージも考慮し、建物の保有水平体力を算出する最も厳密な診断方法です。

3 「Is 値」とは、建物の耐震性能を表す数値であり、数値が大きいほど耐震性能が高いことを表しています。

Is 値0.3未満 大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊又は崩壊する危険性が高い

Is 値0.3以上0.6未満 大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊又は崩壊する危険性がある

Is 値0.6以上 大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊又は崩壊する危険性が低い

※文部科学省では、補強後の Is 値は、おおむね0.7を超えることとしています。

※大規模な地震とは、震度6強から震度7程度の地震を想定しています。

お問い合わせ先 : 小野市教育委員会教育総務課
電話0794-63-1015